

故郷の人物を知ろう

たかおか

おん こ ち しん
温故知新

高岡の名町奉行／小川安村(1728~1806)

安村は江戸中期の加賀藩士(官僚)です。通称は八左衛門、八郎右衛門。号は帯山。加賀藩士高畠定延(藩の歴史書『菅君雑録』著者)の二男で、同藩士の小川弥左衛門(500石)の養子となります。

1764年5月(3月とも)から1780年8月までの16年余り高岡町奉行を務め、その間、行政・商業・消防など数々の機構改革や綱紀肅正、道徳の普及などを実施し名奉行といわれました。1772(明和9)年に、鰯類など

塩干魚を取り扱う四十物師の高額な税金撤廃運動が起こると、安村は同僚の大野仁兵衛と共に大幅な緩和をしました。四十物師が多く住んだ川原町では報恩のため近年まで毎年「鰯祭り」を行っていました。

また、1771(明和8)年には高岡町図(市指定文化財)を製作し、高岡の歴史などを詳細に記した解説書『越中国高岡町図之弁』を著しました。その中で、高岡は風水上「四神相応」の地勢で「天下ノ座城トモ可成」であり、城地として大坂・江戸よりも優れていると絶賛しています。

町奉行の後、安村は組外番頭、倭約奉行、石川門造、御用人など主に経済官僚として活躍。藩校明倫堂の師範も務め、1803(享和3)年に隠居しました。また安村は儒学者でもあり、法を整備して、持てる者の過度な奢侈は取り締まるべきとした『職学弁』(1789年)や、一方庶民のための消費は奨励すべきとした『樹守り』(1800年)などの経済思想書も著しました。(仁ヶ竹主幹)



小川安村「城地得失之考」(部分)
(『越中国高岡町図之弁』(写)より) 中央図書館蔵